

うぶすな

～ふるさどを見る・知る・探す!～



岩田健三郎・画 「辻川の駒ヶ岩」

うぶすなとは「生まれた土地(故郷)」という意味の言葉です。井上通泰と柳田國男が幼いころを過ごした鈴ノ森神社のヤマモモの木を詠んだ歌も、この言葉からはじまっています。

第8号

菅江真澄と柳田國男
柳田國男・松岡家記念館顧問 石井正己

柳田國男が民俗学の先人として敬慕した人物に菅江真澄(二七五四～一八一九)がいます。真澄は信濃・奥羽・蝦夷地を歩いて、膨大な日記・地誌・図絵を残しました。特に、行く先々に暮らす庶民の生活を丹念に書いています。例えば、世界遺産になった秋田県鹿半島のナマハゲを最初に記録したのも真澄でした。そうしたことあって、秋田県ではおらほの真澄として親愛の情を抱いてきました。そこで、昨年(2018)から没後一八〇年を記念して、ゆかりの地である愛知県・長野県・秋田県・岩手県・北海道で講演やシンポジウムを行ってききました。その際、柳田が評価しなかった真澄の和歌がしばしば話題になりました。見知らぬ土地を訪れて交流をするために、和歌が重要な働きをしているからです。先般、平泉では藤原秀衡の六〇〇回忌の和歌・漢詩・俳諧資料が発見され、冒頭の和歌は真澄が詠んでいました。柳田が光をあてなかつた真澄の一面が評価されつつあります。そうした視点から改めて、柳田の和歌認識を考えることが必要になっていきます。

歴史・民俗の目を養う
大阪府立大学工業高等専門学校 講師 伏見裕子

私はこれまで、「産屋」をはじめとして、さまざまな有形・無形の資料や文化財を全国で見つけてきました。現地の案内板などを読むと、現代的観点から見た一面的な(多くの場合、好意的な)解釈や単純化された歴史が提示されていることが珍しくありません。しかし、実際にその文化財などが地域で使用されていた時のことを知る住民に話を聞くと、肯定的な捉え方をしていない人ばかりではなく、辛い思い出として記憶している人に出会うこともあります。また、それが当該地域のなかに存在してきた背景について調べてみると、行政側および地域の有力者、住民らに複雑な利害関係や葛藤が生じていた事例もみられました。近年は、「地域おこし」の大義名分のもとで、これまで忘れられていた、地域では「当たり前」と思われていたりした事物が脚光を浴びることがあります。そんな今こそ、史実に反したり、誰かの思いを無視したりした紹介がなされていないかどうか、見抜ける目を養うことが必要だと思います。

●メールアドレスが変わります●

平成31年2月1日より、地域ドメイン「hyogo.jp」の廃止にともない記念館・歴史のメールアドレスが変更されました。今後はこちらのアドレスへメールくださいますようお願いいたします。

記念館: kinenkan@town.fukusaki.lg.jp
歴史: rekimin@town.fukusaki.lg.jp



神崎郡歴史民俗資料館

☆平成30年度の活動報告☆

明治150年記念特別展

「明治の福崎～福崎の近代化と明治の人々～」

平成30年(2018)は、明治元年(1868)から150年にあたります。明治時代に入り、日本では外国との交流が増えたことで、国家の「殖産興業」「富国強兵」政策による近代化が大きく進みました。その波は、明治の早い段階に福崎にも訪れます。

本展は、郡役所の設置や播但鉄道の敷設など、明治時代の福崎の歴史をふりかえるとともに、幕末から明治にかけて活躍した福崎ゆかりの人々を紹介し、激動の時代にあった福崎にふれていただく機会となることを願い、開催しました。



▲▼展示風景



図録1冊300円で好評発売中!

☆☆松岡五兄弟啓発グッズ好評発売中☆☆



■メモ帳: 300円
(A6判・50枚綴り)

■トートバッグ: 500円
(サイズ: 縦35cm×マチ10cm×横28cm・色: 白、黒)



厚手のコットンバッグなので、A4サイズの書類がたっぷり入って便利です!



■クリアファイル 100円 (A4判)

記念館では、松岡五兄弟啓発グッズを作成、販売しています。松岡五兄弟を多くのおみなさんに知っていただくため、親しみやすいイラストになっています。ぜひお買い求めください。

平成31年度の催し

- ◆記念館
 - 平成31年度 春季松岡映丘画稿展
 - 第40回山桃忌
 - 第6回柳田國男検定
 - 初級編/中級編/上級編
 - 平成31年度 秋季松岡映丘画稿展
 - 第7回福崎町柳田國男ふるさと賞
 - 伊勢大神楽
 - 岩田健三郎さんの版画教室
- ◆歴史
 - 平成31年度 第一回企画展
 - 平成31年度 連続講座
 - 平成31年度 第二回企画展

うぶすな 第8号

平成31年3月15日発行

福崎町立柳田國男・松岡家記念館

〒679-2204

兵庫県神崎郡福崎町西田原

TEL 0790-221038, 12000

◆休館日 (祝日は開館)

月曜日(祝日は開館)

祝日の翌日(土・日は開館)

◆開館時間

午前9時～午後4時30分
(入館は午後4時まで)

柳田國男・松岡家記念館 / 柳田國男生家

*** 平成30年度の催し報告 ***

第39回山桃忌

山桃忌は、柳田國男とその兄である井上通泰の祥月にあたる8月に、2人の偉業を偲んで開催している行事です。

8月4日(土)と8月5日(日)、第39回山桃忌をエルデホールで開催しました。

1日目の第1部では福崎高等学校ギター・マンドリン部の演奏を皮切りに、「柳田國男と『遠野物語』」をテーマとして、当館顧問である石井正己先生による講演や、シンポジウムを行いました。

2日目の第2部では「『遠野物語』の世界を知る」と題し、石井先生による遠野の民俗芸能の解説や、大平悦子さんによる東北弁での『遠野物語』の語り、若手県から招いた保存会による「しし踊り」が披露されました。

来年度の山桃忌は8月3日(土)、4日(日)に開催する予定です。さまざまな催しを計画していますので、楽しみにお待ちください。



◀第1部
シンポジウムの
ようす

◀第2部
しし踊りの
ようす

第5回柳田國男検定

柳田國男検定は、柳田國男への理解を深めることを目的とした取り組みです。

8月5日(日)に、「第5回柳田國男検定」を実施しました。今回の受験者は計53名で、合格者は計28名でした。今年も上級最高得点者には、「遠野への旅」を贈りました。柳田國男検定は来年度も実施を予定しています。みなさん奮ってご参加ください。



▲各級最高得点者の皆さん

第6回福崎町柳田國男ふるさと賞

福崎町柳田國男ふるさと賞は、福崎町内の小中学生が地域の歴史や文化を調べた作品の中から選ばれます。

本年度の福崎町柳田國男ふるさと賞は、以下の4名が受賞しました。

◆小学生低学年の部 八千種小学校 4年 内藤のこさん

◆小学生高学年の部 田原小学校 6年 中野唯吹さん
萩原京太郎さん

◆中学生の部 福崎西中学校 2年 吉田愛菜さん

優秀作品79点は、12月9日(日)まで「福崎町子どもふるさと展」で展示しました。たくさんのご応募ありがとうございました。



▲来年もご応募お待ちしております

日本民俗学会奨励賞

10/13
(土)



本年度は、成城大学文芸学部専任講師の及川祥平さん(右)が受賞しました。



国指定重要無形文化財の伊勢大神楽が今年も福崎へやってきました。

伊勢大神楽 11/10
(土)

岩田健三郎さんの版画教室

12/9
(日)



今年も版画家の岩田健三郎さんに、年賀状作りをご指導いただきました。

松岡静雄生誕140年記念展

松岡静雄展 平成30年9月15日(土)~11月25日(日)

平成30年度は、松岡静雄生誕140年の記念となる年です。

記念展では、静雄から國男へ宛てて記された書簡や、静雄の乗船・行動を自ら記録した「奉職履歴」、海軍時代の望遠鏡に加えて、新たに寄贈された静雄ゆかりの南洋の木像や書籍などを展示しました。静雄の人となり、生涯を通じて取り組んだ民族学、言語学、国文学などの多岐にわたる研究の数々や、互いに相通じた研究を行った松岡家兄弟の絆について取り上げ、140年の節目を祝いました。

海軍軍人として



◀海軍時代の静雄の望遠鏡

松岡静雄は日本民俗学の父・柳田國男の長弟で、海軍兵学校を主席で卒業し海軍士官となります。日露戦争中巡洋艦千代田の航海長を務めたほか、第一次世界大戦前にオーストリア大使館付武官となりヨーロッパの流動する情勢を細かく報告し、日独戦争中にはミクロネシアのボナベ島司令官などを務めました。

海軍時代の松岡静雄▶



学者として

大正7年(1918)に海軍大佐を最後に軍務を去った松岡静雄は、言語学や民族学の研究活動に取り組みました。國男とともに「日蘭通交調査会」を設立し、理事に就任後は現在のインドネシア周辺の調査を行いました。

大正11年以降は鶴沼の自宅を神楽舎と名付け、言語や民族、歴史の探求に注力しました。『ミクロネシア民族誌』で結実する太平洋の島々の語学研究をはじめ、兄・井上通泰に続く万葉集や風土記の研究、『日本古語大辞典』といった大著も多く手がけています。静雄が生涯で出版した著作は50冊以上にのぼりますが、そのうち40冊あまりが鶴沼へ移り住んでからの10年で執筆されたものでした。

また、神楽舎では弟子たちの指導にもあたりました。吉野秀雄、扇谷正造なども参加し、後の人文科学へ大きな影響を与えました。



▲『日本古語大辞典(訓詁編・語誌編)』(右) 『ミクロネシア民族誌』(左)

講演会の模様

11月10日(土)に神戸大学大学院人文学研究科特命助教の井上舞先生、11月17日(土)には当館顧問の石井正己先生にお越しいただき、記念講演を行い、多くの方にご参加いただきました。



▲11月10日(土)の講演のようす(左)と、11月17日(土)の講演のようす(右)